



◆当面する重点作業

1. 本年は、満開期以降気温が高い日が続いたため生育が前進している。摘粒作業が間に合わず、袋掛け作業が遅れている方が目立つ。袋掛を早く行う事は、病虫害防除対策にも重要。
2. ナガノパープルは裂果防止、シャインマスカットは糖度食味向上、クイーンニーナは着色向上のため、大房にならないように摘粒を正確に実施し、着房数の徹底も行って下さい。
3. 降雨が続く場合は、薬剤散布間隔を10日以上空けないよう、晴れ間を見ながら散布する。黒とう病、べと病が発生した場合は、被害房・葉を切除し、肥料袋等に入れ、園外へ持ち出し処分する。なお、べと病の発生源となる副梢及び遅れ花を適正に処理する。
4. 棚の明るさを確保する。シャインマスカットは明るすぎて、房が黄色くならないように副梢を利用する。7月15日頃より果粒軟化期（縮果症危険時期）に入ると思われ、それまでに副梢整理を行う。
5. 降雨がない場合は、定期的にかん水を行う。降雨が続く場合は、排水対策をする。特にシャインマスカットは、縮果症の発生要因となるため注意する。
6. クビアカスカシバ加害が見え始めてくる時期。7月中旬～8月初旬までは、主枝・主幹部を定期的に観察し、虫糞が出ている場合は捕殺に努める。お盆過ぎまで見落としていると、加害部から先端が枯死する可能性がある。

◆特別散布について

1. 散布時期：袋かけが遅れ、第8回薬剤散布より、10日以上間隔が空く場合は実施する。
2. 調合量：水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ライメイフロアブル	33ml	べと病	14日前
オンリーワンフロアブル	50ml	晩腐病・さび病・灰色かび病	前日

3. 散布量：10a当り ⇒ SS・動噴＝250ℓ

4. 留意事項

- ①袋かけが終了している場合は、第9回散布を実施する。
- ②晩腐病・サビ病の発生が心配される場合、又は冷蔵シャインマスカットを出荷する場合は必ず散布する。
- ③スリップスの発生が心配される園は、④スカウトフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml・収穫7日前・年3回以内）を加用散布しても良い。
- ④ライメイフロアブルに代えてランマンフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100ml・収穫14日前・年3回以内）でも良い。
- ⑤果粒の汚れ溶脱に充分注意する。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：袋掛け後
2. 調合量：水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ムッシュボルドーDF	200g	べと病・さび病	—
エクシレルSE	20ml	スリップス類・ケムシ類	前日
固着性展着剤K、Kステッカー	33ml	※必ず最後に調合する	—

4. 散布量：10a当り ⇒ SS・動噴＝350ℓ

5. 留意事項

- ①袋かけ後は出来るだけ速やかに散布する。特に、べと病やスリップス防除のため棚上の新梢や2番房にも十分散布する。（場合により、袋かけ終了園ごとの散布も必要。）
- ②エクシレルSE等の殺虫剤混用は、直前混用とする。

- ③ケムシ類発生が多い場合は、エクシレルSEを2,500倍（水100ℓ当り40ml）に代えて散布してもよい。
- ④ムッシュボルドーに代えて、icボルドー66Dの50倍（水100ℓ当り2kg）又は、4-4式ボルドー液（生石灰400g、硫酸銅400g）を使用してもよい。
- ⑤エクシレルSEに代えて、ダントツ水溶剤2,000倍（水100ℓ当り50g）又は、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍（水100ℓ当り50g）を使用してもよい。
- ⑥固着性展着剤K.Kステッカーに代えて、固着性展着剤アピオンE2,000倍（水100ℓ当り50ml）を使用してもよい。ただし、最初に加用する。
- ⑦クビアカスカシバ・スカシバ類の発生のある地域は、**㊦パダンSG水溶剤1,500倍（水100ℓ当り66g・収穫前21日前）を特別散布する。収穫21日前までの使用となるので注意する。散布の際は、手散布で主幹・主枝にたっぷり掛ける。大粒種のための登録ため、農薬の飛散に十分注意する。デラウェア等小粒種には登録無し。**
- ⑧クビアカスカシバの虫フンが出始めるので、被害部にロビンフット（スプレー式殺虫剤・収穫前日まで・5回以内）を散布してもよい。食入孔にノズルを差し込み噴射する（ノズルが詰まらないように噴射しながら差し込む方がよい）カミキリムシやコウモリガにも効果がある。
- ⑨カイガラムシの発生が心配される場合は、袋掛け後並びに7月中下旬までにモベントフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）を特別散布してもよい。

◆苦土欠乏対策について（種無し・種あり共通）

枝の伸びが良い場合は、基葉の色が薄くなりやすい。葉色を良くし、着色・糖度を向上させる。また、欠乏症がでやすい短梢栽培では、積極的に葉面散布を実施する。

1. 葉面散布：袋掛け後の第9回目以降に加用散布する。

肥料名	散布量
グリーントップ70	500倍（水100ℓ当り200g）
ビクマグ（リーフマグ）	1,000倍（水100ℓ当り100g）

◆種あり巨峰の弱樹勢樹対策について（メリット赤の散布は行わない）

種ありで樹勢が弱く軸が黄変する樹にチッソの葉面散布か追肥を行う。

- ①アミノメリット青の葉面散布。（袋掛け後）
500倍液を7月中旬から5～7日おきに2～3回散布。
- ②尿素の500倍液の葉面散布。（袋掛け後）
5～7日おきに2～3回散布。
- ①・②ともボルドー液との混用はよいが、高温時の散布は葉やけが出やすいので注意する。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代・情報担当）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関しての電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311